

# 欠

「ゑ」と大體同様なれば茲に省く。

「を」はおと同靈にして同義である「わ・お」の二韻より成り唇韻自言である

「を」此れもおと同様なれば茲に略す。

以上は靈音の活動也。

右に述べたるは、靈音をば、五十音の清音一音ごとに述べたるものなり、此の外濁音等あれども、皆此の清音に準ずるものなれば、此の清音の音靈をよく辨へて、其の活動の状態を知り得べきものである、故に音靈の活動に依て人の姓名を判断するは最も正確にしてまた自然の大法である、故に今迄の如く字劃をば其の儘數に當て算めて計算して、此を易の卦に當てて、數理的の判断を下したる鑑定法とは實に雲泥の差もあることは、哲理に依つて明かなるのみならずまた左の實例に依つても明かである、今左に一例を揚ぐれば、今迄の字劃判断は必ず左の形式を採つた。即ち、

音靈と姓名との關係



音靈と姓名との關係  
 火土 3  
 水方 4  
 木久 3  
 木元 4  
 數は十四劃  
 火水木木の配合  
 4  
 5  
 天地の能く  
 土  
 火

である、此の字劃の數は總計十四劃であつたから、易より割り出したる十四劃の卦の數に當てて判斷を下せば、財力、才能、共に不足にして、功なく、不運に陥るといふ様な極めて悪い、失意煩悶を免れない運數になつて居るが、其實土方伯の如きは此の判斷と非常に異なり、高位、高官の要樞を占も、宮内大臣となり又議定官として功成らざるはなく、平和圓滿にして而も長壽を保ちつつあり、此れ即ち從來の字劃判斷が應々にして誤りある證據である。

然るに今之れに音韻の靈に依つて正確なる判斷を下せば次の如である。  
 土 方 久 元

といふ様に、其の人が普通に用ゐて居る通りに讀み下して此れに、主音のみを書き表はすのである、而して此れを「ひかひも」とすれば、此の人の姓名は、ひの音は二つあるが故に「ひ」の音は非常に強く響く、然るに此のひの音は、貫き通すの

音靈と姓名との關係

靈であるから、萬事何事に就ても全身の勇を振つて努力して、貫徹するの氣がある、又「か」の聲は、光輝の靈であるから、光彩陸離として、人より注目を受ける、高位高官に昇り、財を集め、家運を中興するといふ靈であるから、財寶、人望其れに集むるの才能あり、女色に就て苦情ある象である、故に此れを今迄通りの字劃判斷より來る鑑定よりは頗る正確であつて、また百發百中必ず適中するのである、然れども銘刀の正宗も此れを暗愚に委ねれば、必ず人を傷け己を殺すに至ると同様に其の根底を知らずして、其の表面のみを究めて、人の運命を鑑定せんとするが如きは實に由々しき一大事であるが故に此の音靈に基つて、靈の音示よりに起る人々の成敗、起居動作に至るまで之を判斷せんは、必ず多大の修養を要すべきものである、また同じ音靈に於ても、男子と女子との活動の暗示に至つてはまた自から異なるものあれば、此れも亦注意すべきである。



◎音質

吾々が日常使用して居る音韻をば、宇宙の體制である原素の火水木金土に區別して、音質を定めてある、此の音質に就いては、印度に於ても既に認められ、釋迦の五行の歌の如きは、音響をば、水火金木土に區別して通俗に教へて居る、今姓名學にも、此の音質の原則を應用して、音響と音質の互に排合する状態並び其の結より生ずる特種の意義等に就いて、表はれ來る哲理を伺ふことが出来る、抑も、五行の音質なるものは、一種の哲學的系統を帯びて居るもので、尙書太傳に曰く、

「水火者百姓之所飲食也、金木者百姓之所樂作也、土者萬物之資生也」

とありて、其の起原、昔洪範が特に宇宙の原素を達觀して、人生に最も深い關係を有し、生活と相離るべからざるものを採つて施政の參考としたのである、然れ

ども之の哲理は支那に於て始めたるに非らず、古代に於て印度のアーリヤ族の間にも、此の思想が存在して居たのである、即ち此思想が西に流れて自然哲學中のエムペトクレス (Empedokles) の萬物根本説即ち宇宙の萬物をば、地水火風の四原質を以て説くに至つたのである、印度の古代に於ては自然哲學の基礎が大いに發達して居た事を述べて置いたが、此の五行の説の本原である所の地水火風空といふ五大は、婆羅門の時に一切の物象をば五大三徳を以て、世界を整備したのに初まつたのである三徳といふのは、喜、憂、闇の三つで、此れが一切の性能であるとして、五大は萬物の質であると論じたのが、今日の五行の根元である。

此の五行の説に依つて、音韻の質なるものを定めたのが今日普通に存在して居る五氣の配合といふのである、一般に姓名學者は、此の五氣の配合をば、音にのみ摘要して、例へば、豊臣秀吉といふ名を音で讀み、

水 豊  
金 臣  
金 秀  
木 吉

音響と姓名との關係



音韻と姓名との關係

といふ様に無理に、漢音又は吳音に合はせ様として居るが、此れは間違で、五行の音質といふものは、聲其の者について居るのであるから、何も苦しんで、無理に漢音吳音に當てる必要がない、普通一般に讀んで居る通りに發音して、其の發音に五氣を當倣めればよいのである、即ち豊臣は「ほうしん」と讀まずに「とよとみ」と讀んで其の「とよとみ」と讀んだ聲に五氣が籠つて居るのである。

豊 火 臣 水 秀 土 吉

といふ五氣の配合となるのである。

五氣を以て音韻の質を表はせば、次の如くである。

(水質) ハ行 ハヒフヘホ マ行 マミムメモ

(火質) タ行 タチツテト ナ行 ナニヌネノ ラ行 ラリルレロ

(木質) カ行 カキクケコ

(金質) サ行 サシスセソ

火木ハ、土金

(土質)

ア行 アイウエオ ヲ行 ヲキウエヲ ヤ行 ヤイユエヨ

音と韻には、靈と質が共に具はつて居ること明かであるから、靈と質と互に相寄り相扶けて、其の人の靈を支配すべき暗示となるので、或音と他の音と互に相結んで、一の姓又は名となる時は、其の音質の間に相和合一致する處がなければならぬ、若し音質が相離反すれば、其の姓名を有する人は、離反排斥し鬭争を好む暗示を受けるのである、音質は次の如く組合はせると、活動の素質を有する人となり、活力ある人となる、其の猛烈なる活力は、姓と名の音質に於ても相一致すれば向上の人となり、善良の活動を爲す人となれども、若し、名の音質の配合のみよくして、他の姓名との音質の配合が相反して居る者は、一度は逆境に陥る者か或は猛烈なる活動力を悪用して、身の破滅を招ぐに至る人である、音質相互の順調な配合は次の如くである。

木質と火質 火質と土質 金質と水質 木質と水質 土質と金質

音韻と姓名との關係



音霊と姓名との關係

等である、であるから、音霊と音質とさへ善良であれば、字劃が悪くても、非常に活動的の人が出来るのである。

福澤 桃介 四十四

字劃に依ると福澤桃介氏の如きは、四十四數の運格で、大凶惡な、終身貧苦困難あり一身一家を滅ぼす凶運で、不具か發狂か短命であるといふ運命であるが、實際は此れと大反對で、然も三百萬以上の財産家で又非常なる敏腕の活動家であつて、一身一家の令名を輝して居る人であるから、一般の姓名學者の字劃判斷は少も當らなくなる、然るに余の研究の如く、此の人の姓名を音霊と音質とより鑑定すると。

水福澤 木桃介

此の姓名は、姓の音質と名の音質に於て、理想的の好配合で、「ふ」の音霊は、進行の靈、無淀の義也、(さ)の音霊は、擴がり騒の靈、此れ大活動家を意味す、

第十三章

姓名判斷法

「も」の音霊は、集むるの靈、寄の集、人望財寶共に聚むるの義、「す」すは中に寄るの靈、寄生の意あり、人の養子又は大人物の下に寄るの像ちがある。如斯音霊と音質の兩者を用ゐて、明確に判斷をなして、其の鑑定を誤まらぬ様にすれば、其の判斷の正確なること實に驚くべきものがある、故に字劃に於ては非常に凶惡でなければならぬ人も、音質、音霊の組み立てが、非常は宜しきが爲めに數百萬の富を重ね、或は天下の人望を一身に集むるなど實に不可思議の現象が多々ありて、到底一々枚舉すると遑まがない、家號、又は藝名等も皆なこの音霊より割り出して、通號、通稱とせなければ決して成功するものでない。

凡そ人の運命を判斷せんとせば、餘程の見識と修養が必要である、淺薄なる經

姓名判斷法



験を學理に依つて、無暗に人の姓名を判断するは、却つて生兵法は大疵の基となる故に判断者は充分な見識が必要とする、扱て茲に姓名を判断する手続きを述べて見れば最初、被判断者の姓名をば正確に明記して、其の日常使用して居る音韻を傍らに淨書せなければならぬ。

その次には被判断者の生年月日を問ふのである、これは、被判断者が幼年者であるか又は青年であるか、老年であるか、かの参考であつて、被判断者の將來の運命が如何に轉回して行く可きかを豫言する参考である。

其の次には、一枚の白紙の上に其の被判断者の音靈を列記するのである、また音質を列記して、字義を正す爲めに姓名の文字を清書して判断に移るのである、字劃も亦ほんの参考までに劃數を改むる必要もある、この形式が濟み次第に、音質の配合、音靈の活動、最後に字義等に就いて、充分の注意と熟慮を以て、検査するのである、而して、其の検査に依つて得たる部分的の判断をば、之を互に取捨

### 第一 音質判断法

選擇の末其の人の運命を的確に豫言して、適である、決して、大人高貴と雖も恐ることなく、自己の信じたる鑑定を直言するのである。

若し右の三者が揃つて居る者なれば、必ず成功すること疑ひなく、上々の運命に居る人か、又は今現に向ひつつある人である、又此の三者が如何に錯合して居るか、如何なる統一を見出すべきか又如何に判断を下すべきかが判断者の見識と智力の完全に待たなければならぬ、故に同じ姓名の人を兩人の判断者にて之を判断せば、修養見識共に備はつて居る甲者は、百發百中完全に之を豫言するも、乙者に經驗なく、學識具はらざれば、甲者の如く、的確なる判断を爲し得ずして却つて被判断者の笑を招く者少ならざるは一に判断者の修養如何にある。

被判断者の姓名の傍らに、音韻の音質を表はして、其の配合を検査して、其の音



姓名判断法

質の組合せの如何に依つて運命を定めるのである、組合せ並び音質の配合よくば、例へ字劃の配合悪しくとも必ず成功する者を出すものである。

馬水 越木 恭水 平水 日水 比水 土翁 助金 敬木  
土水 方木 久水 元水 原水 敬木  
等の如く、音質の配合よく、組合せ順當なる人は、必ず順序よく出世、成功を爲し、幸福を受くること多し。

第二 音靈の配合

此の音靈の配合は、最も重要なもので、先づ被判者の姓名の主音の音靈によつて判断すべきものである。

勝十二 安六 房八 廿六

今迄の字劃判断に依る時は、姓名を通して、總計も又廿六とい

ふ數にして、大凶惡の運命と判断しなければならん、然るに彼の事蹟を見れば、其の人格の偉大にして、彼の成したる大業は、西郷以上のものあるを見るべし。故に字劃判断の如何に誤謬あるかが之を以ても知るを得べし、然るに今之を音靈の判断に依つて判断すれば、

勝か 安あ 房わ

といふ様に、かの音靈 あ の音靈 わ の音靈を明記せねばならん。

「か」は光輝の靈 「あ」は顯出の音靈

「わ」は締切の靈

である、右の三大靈音を姓名とする時は、意識に一大暗示を受けて、維新の大業の如き大なる功績を成さしむるに至るものである。

また音靈に依れば西洋人の姓名に依つても、難なく其の運命を判断することが出来る殊に朝鮮人、支那人の如く同文の國民に於てをやである。

姓名判断法



姓名判断法

ナ ホ レ オ ム  
ン

「な」といふ音霊は、推出すの靈言である、「ほ」の音霊は上に顯るるの靈である、「れ」は挾指之靈音にして、「お」は外に結ぶの靈音である、「む」は壓定の靈音である、故に彼は音韻の音霊の暗示によつて、其の姓名の音霊の命する通りに、其行爲を爲すのである、即ち彼の運命は、其の名の暗示の如く、始めはコルシカの一孤島から推し出して來て、上進すること龍の如く、一度はフランス國の帝王となり、宇内に其の暴威を振ひたれども、彼れの狭心は、却つて失敗の原となり、英國に對しては、有名なる大陸封鎖を斷行し、己れ心の狭かりし爲め、最も忠實なる賢妻、良臣等と遠ざかり、遂に英獨の聯合軍に壓倒せられ、ワテローの一戰に破れ、遂にセントヘレナの遠島に餘命を終りたるが如きは、皆此の姓名の音霊の暗示に依つて來るべき運命である。

伊 藤 博 文

今故公爵伊藤卿の運命をば音霊に依りて判断せんに、先づ第一に「い」の音霊は至留る靈言であつて、「と」は扼止の靈である、「ひ」は貫の靈音、「ふ」は進行の靈音である。

故に之れに依り公の一生を豫言すれば、萬事悉く遂行せんとする努力ありて、何事も貫徹せんとする意氣あれども、延びんとするを扼止せられたるは公の一生である、故に公は發展的、進行的の偉人であつた然れども姓名の音霊の暗示は公の運命を握つて、遂に至留扼止の運命に遭遇せしめ、バルピン原頭の露と消え失せたのである。

星 亨

星亨氏の運命に關して判断を爲せば、左の通りである、「ほ」上に顯る靈言であつて、「と」は扼止の靈言である、故に此音霊の暗示は故人の全運命を司ごつて、彼の上進の意氣實に當る可からざるものあり、恰も奈翁の夫れの如く、枯野を掩

姓名判断法



く、疾風の如く上進したけれども、音霊の扼止の暗示は彼れをして、九乃の底に陥れて、哀れ故人の冷たき骸は、東京市會の議事堂に横たへたのである。

### 第三 文字の意義

人間は完全なる意識を有して居る以上、また吾々の日常使用して居る文字なるものが直接有意文字なる以上は必ず其の文字を使用して居る間に其の文字の意義に近からんことを望み、また自己の有意文字は、自己の唯一の概念と心得て居るが故に、意識作用に及ぼす感覺は實に偉大なるものである、即ち「花」といふ名を有して居る者は其の花と云ふ字の有して居る概念の如く、華美となり、人に其の容姿を誇り、また人に愛されんとする様に努めるのが吾々の心理作用の自然である、故に此の文字の意義は充分に注意して考察しなければならぬ、又姓の文字と、名の文字の意氣が能く均衡して居なければならぬ。姓のみ立派なる意義を有し

て居ても名が悪しき意義を有して居れば何の役にも立つものでない、しかし女は姓よりも、名に依つて暗示を受ける事が非常に強烈である、故に姓名の文字なるものは注意しなければならぬ、中には、意義は完全して居ても、諡法に用ゐる文字がある、即ち人が死んだ時に其功蹟を表はす爲めに附する名であつて、俗に云ふ位牌につける文字である、これには、約百三十一文字あつて、若し此の名を一字にて使用するか又は、二字、三字、重ねて使用すれば、如何に善良な意義を有して居ても、其の人は必ず短命か、両親の何れかに生別死別するか、一大災厄に遭遇するか、兎に角最も兇惡なる運命に陥る者が多い、例へば次の如きである。

賢 獻 景 宜 昭 惠 廣

等の文字で其他は茲に掲載せないが、判断者は能く注意して検査しなければならぬ。

凡そ姓名學の判断を爲す者の資格としては、先づ第一に哲學に通じて居なければ



姓名判断法

ばならん、次には、漢學、國文學、言語學等の素養を充分養つた上でなければ、完全な鑑定は爲し得ない、文字の意義等に於ても、國學、漢學より解釋を下すのが正當である、例へば、

徳川家康

といふ姓名があれば、此れを解釋するには、徳は正しきことにして、川は平らかなるの意である、家は地門、同族の門閥にして、康は樂しむ安んずるの意である、今此の姓と名との義を統一綜合すると此の様な姓名を有する人は、自己の姓名より常に得て居る概念なるものは、即ち同族一門の繁榮を企て、平和に正しく、能く治むることを意味するのである。また、

豊臣秀吉

の姓と名に就いて之を義解して見ると、豊といふ字は、盛んにして盈ちたる象で、臣は君に仕ふるもの、秀はあらはれ出ること、即ち衆に拔き出ること、吉は幸

ひ目出度きの義である、故に前後を通ずると、元氣旺盛であつて、臣たる分限に於ては、月の盈つたるが如くに、幸ひ多くして、必ず世に顯はれ傑出するの義である。

如斯人の姓名の文字の意義なるものは、餘程大切なものであるまた普通一般の人士は、其の字義をば非常に注意して、尊重して居るから、判断者は正鵠を得て文字の意義を考察しなければならん。

第四 字割判断

此の字割判断即ち文字の字割をば、易より出た一定の數に當て、計算するといふ事は、頗る一般の例になつて居るが、此の判断法は前述の如く往々非常なる大誤があるから、充分の注意をしなければならん、字割を以て専門的に鑑定するのは、最も危険である、また正鵠を得ない事が多い、姓と名との計數を通じて、大



姓名判断法

兇惡の運命に當然陥る可きものが、之れと正反對に非常の高位、幸福を極めて居るものが、實に少なくない、故に此の字割判断をば、判断者が用ゐて、被判者の姓名を鑑定する場合には、只ほんの參考に供する位に止めなければならん、今茲に字割判断の手續を、述べれば、先づ最初に被判者の姓名の字割を正確に清書するのである、女の姓名は、片假名を用ふるか又は漢字を用ふるか何れにてもよし、平假名は用ふるを得ないのである、即ち豊臣秀吉といふ姓名に就いて、字割判断を行ふ場合には、豊といふ字の割数を定むるのである、次に臣、秀吉と順次に字割を計算して次の如く書くのである。

豊 十八  
臣 六  
秀 七  
吉 六  
吉 六

三十七

即ち十八劃、六劃、七劃、六劃と、順次計算して、總計三十七數といふ數を得るのである、そして此の三十七數をば、易の卦に依つて得たる、三十七位の運格

に當てはめるのである、今三十七位の運格を見るに、奏功無比の、吉數にて、天賦の幸運あり大功を爲すといふ判断が出るのである、此れを其の人の運命と見るのである。

次に

德 十五  
川 三  
家 十  
康 十二

安 六  
田 五  
善 十二  
次 六  
郎 十

三十九

三十九

右の總數を前例と同様に、三十九格の運數に當て籍むれば、權威財産生命の三德具はる、貴重運命となるものである、即ち三十九數の運格が全部其の人の運命となる譯である。

服 八  
部 十一  
金 八  
太 四  
郎 十  
四十一  
(時計王)

右の姓名に於て、總計四十一數となる、故に今、四十一數の運格を當て籍むる

姓名判断法



姓名判斷法

と、豪毅大才子にして、大業を成す貴重の運数といふ、運命が出て來るのである。然し右の字劃判斷の字劃は字書に依つて、非常に差異があるから、先づ康熙字典なれば、正確であるが、其の他の字書には誤謬があるものもある、また字劃判斷が、當て筭まらぬ例が多々あるから決して正確とは云へぬ。

姓名の判斷は大要上述の如くであるが次版には人の姓名の配置を裏面より觀察した微妙の變化に就て其人の年々に遭遇すべき事件即ち吉凶であるとか、縁談の調不調、事業の成敗、疾病の有無等極めて詳細の研究事項を一般の讀者に知らしめんが爲め懇切なる増訂を爲し悉く第二版に掲載すべし。

哲學的姓名學基礎 終

大正三年九月五日印刷  
大正三年九月八日發行

(正價金壹圓)

和田 年 弘  
東京本所區松井町一丁目十八番地

上野 耕 邦  
東京本郷區湯島四丁目八番地

中村 政 雄  
東京麴町區有樂町二丁目一番地

報 文 社  
東京麴町區有樂町二丁目一番地



發著 發行 者兼  
發著 發行 者兼  
印 刷 者  
印 刷 所

發賣元

東京神田區  
表神保町三番地

東京堂書店

(電話本局一三三・二四八・二五五二)



350  
417



終

